

図解でわかる

永久保存版

ホッと落ち着く空間がほしい人のための
間取りのルール



Rules of the Layout Drawing

有限会社アイズホーム



図解でわかる

永久保存版

ホッと落ち着く空間がほしい人のための
間取りのルール



はじめに

「ついに我が家もマイホームデビュー！」

家づくり計画を始めたとき、いちばん希望を叶えたいのが「間取り」です。

また同時に、効率よく計画を立て準備をし、知識を蓄えておかないと、家づくりを失敗しかねないのも「間取り」なのです。

これから先、5年・10年・20年と生活を共にする、他の誰のものでもない、あなただけのマイホームです。

間取りにもこだわりを持って、暮らしやすく居心地が良い、オリジナルの家を建てていきたいものです。家族のライフスタイルに合った、間取りの計画方法をこのハンドブックを通して紹介していきます。

間取りの知識をしっかりと身に付け、私たちと共に、あなただけの空間を一緒につくりましょう！



間取りの基礎を知ろう	4
① 間取りの考え方	
間取りの基礎を知ろう	6
② 動線とは	
プランの種類	8
リビング	8
ダイニング・キッチン	9
寝室・子供部屋	10
浴室・洗面 脱衣所・トイレ	11
廊下・階段・玄関	12
収納・車庫	13
間取りの考え方①	14
家族のライフスタイルを知る	
間取りの考え方②	16
ゾーニング	
間取りの考え方③	18

間取りの基礎を知ろう

① 間取りの考え方

家づくりの中で楽しみのひとつが、「間取り」を考えること。思い描いていた夢をかたちにするための第一歩です。

希望の間取りを叶えるために、まずは土地と建物の関係を確認しておきましょう。家を建てるための土地はどんな形をしているのか、道路との位置関係はどうなっているのかなども間取りに関係してきます。

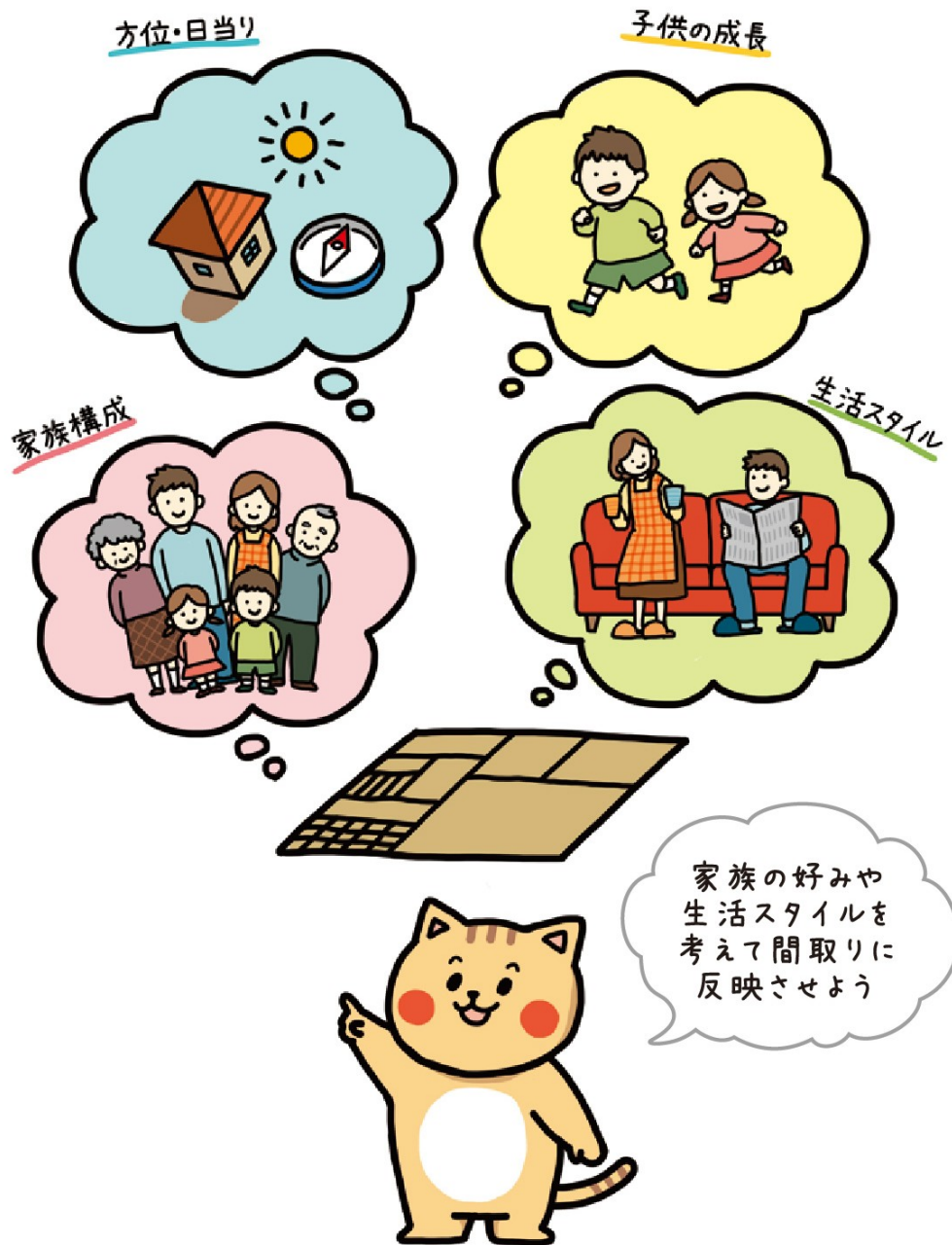
たとえば、一見日当たりが良さそうな南側道路の土地は、玄関や車庫などを道路側に配置する必要があるため、せっかくの南向きであっても、設計上リビングに日差しが届きにくくなるといったことも考えられます。もし道路沿いにリビングをつくることができたとしても、植栽やデッキで目隠しが必要になることも。反対に、北側道路であれば、たくさんの部屋を日当りのよい南側に持ってくることもできるのです。また、西側道路、東側道路であっても南側を広くとることができますが、時間帯による採光や日当りの工夫が必要になるでしょう。

人気のある角地では、建ぺい率が1割増になるため、より大きな家を建てるのが可能です。風通しもよく、開放感があるのも角地の特徴。ただし、道路に面している部分が多いので、周りからの視線対策にも気をつけたいものです。

このように、敷地によっても考えられる間取りは変わってきます。家族の希望や動線を考えながら、快適で住みやすい家を一緒につくっていきましょう。



間取りは家族のライフスタイルによって十人十色 ★ ★



Point

まずは、今の家族の暮らしをしっかりと見直して、生活スタイルにぴったりの家をイメージします。間取りによって、家の中で快適に暮らせるかが決まります。

間取りの基礎を知ろう

② 動線とは

間取りを考えるのに大切なことがもうひとつ。スムーズに家の中を移動できるような「動線」です。動線とは、人がどのように動くかを図面上に線であらわしたものです。この動線をなめらかで動きやすくなるように設計することで、暮らしやすい家ができあがります。玄関からリビング、リビングからダイニングなど、実際に歩く場面を想像しながら考えてみましょう。

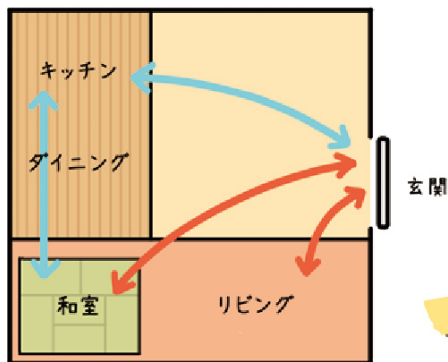
家の中での動線は「生活動線」とも呼ばれ、「表動線」、「裏動線」、「家事動線」の3つで構成されています。表動線とは、お客様など、家族以外が利用する動線のことです。玄関から各部屋へ移動するための動線を指します。一方、裏動線とは、キッチンに出入りする動線や勝手口からの動線のこと。お客様にあまり見せることのない、プライベートな動線です。裏動線はおもてなしのための動線であるため、お客様の動きとぶつからないようにするのが基本です。表動線と裏動線が重ならないような設計をすることで、お客様も家族もそれぞれが不便な思いをすることがなくなります。

「家事動線」は、その名のとおり、日常の家事で使う動線のことです。洗濯機から物干し場、キッチンからダイニングなど頻繁に使う動線は、移動しやすい設計にしておくことで、家事の負担も軽減されます。

また、家族であっても、それぞれ利用する動線が違います。家族の1日の行動パターンを考え、もっとも快適な動線を考えるようにしましょう。



押さえておきたい毎日の家事動線



表動線 \longleftrightarrow
裏動線 \longleftrightarrow

お客様をお迎えする場合の、玄関から各部屋の「表動線」に対しておもてなしをするため、キッチンから出入りする動線が「裏動線」

Point

表動線と裏動線は交差したり、重ならないようにするのがポイントです。

プランの種類①

今度は、それぞれの部屋にスポットを当てて間取りを考えてみることにしましょう。共有スペースであるリビングやダイニング、生活していく上で欠かすことのできないキッチンや浴室、トイレといった水回り。家族の時間や空間を大切にする寝室や子供部屋。それぞれの部屋をつなぐ階段や廊下、そして収納。各部屋の役割や特徴から見た設計上のポイントをご紹介します。家族の好みはもちろん、動線や生活スタイルにも配慮しながら、おおまかな間取りのプランを立ててみましょう。

plan 1

リビング

家族だんらのスペースです

共有スペースの中でも、いちばん家族が集まり、長い時間を過ごすリビングは、日当たりや風通しがよく、ゆとりのある開放的な空間にしたいもの。また、ダイニングやキッチンなどとまとまりで考えられるケースも多く、ほかの部屋とのつながりも重要なポイント。一般的に、大きさは8畳～16畳くらいがおすすです。リビングダイニングであれば、14畳～24畳くらいまでがベスト。

8～16 畳
くらいがいいよ



plan 2

ダイニング

家族だんらんのスペースです

ダイニングはスペースに合わせて、単独型、LD型、DK型、LDK型などを選択することができます。ダイニング単独なら、6畳～8畳くらいを考えておけば十分でしょう。単独型は比較的大きな住宅向け、キッチンが独立したLD型やリビングが独立したDK型は、中～小規模の住宅におすすりめです。最近は、共有スペースをコンパクトにまとめて、家族のつながりが密になるようなLDK型も人気です。

plan 3

キッチン

すてきな奥様の料理のアイデアが広がります

間取りを考えるうえで、最も大切な場所のひとつがキッチン。いろいろな作業を同時にこなさなくてはならないキッチンは、動線はもちろん、大きくて使いやすい収納にも気を使う必要があります。また、ダイニングとのつながり方によって、オープン、セミオープン(対面)、クローズド(独立)にするかどうか変わります。キッチンそのものにも、I型、II型、L型、U型などがあります。



プランの種類②

plan 4

寝室

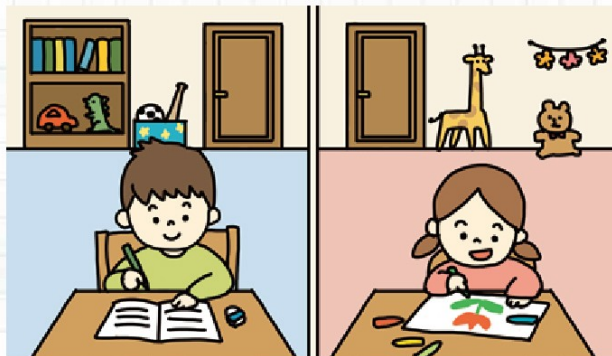
心が落ち着くプライベートルームに

プライバシーの確保が優先される寝室は、共有スペースから離れた場所に配置するのが一般的です。ベッドや家具を置いたり、衣類などをしまう収納も必要になるため、8畳～10畳くらいの広さが必要。隣にウォークインクローゼットを配置するのもよいでしょう。また、可能であれば、日当たりや風通しのよい南側につくるのがおすすめです。

plan 5

子供部屋

子どもがスクスク育つスペースです



成長とともに、部屋の使い方や役割が変化するのが子供部屋。とはいえ、数年ごとに住まいを建て替えるわけにはいかないため、将来を見据えたプランを立てておくことが大切です。たとえば、兄弟が増えたり、成長によって個室が必要になったときに、簡単に間仕切りをつけられるような工夫をしておくこともアイデアのひとつです。個室は5畳～6畳程度。大きめの収納も備えておきたいものですね。



plan 6

浴室

一日の疲れもパッと吹き飛ばす！

一日の疲れを癒してくれるバスルーム。清潔感があって使いやすいことが第一条件です。また、しっかりと換気ができるような窓を取り付けておくと便利です。給排水の配管のことを考えて、洗面やトイレとともに一カ所にまとめて設置するのが経済的。

plan 7

洗面・脱衣所

モノが溢れない工夫を…

洗面と脱衣室はひとつの部屋にまとめるケースが多いのですが、家族構成や生活スタイルに合わせて、別々に設置をしてもかまいません。洗濯機や洗濯物などを置くスペースも必要ですので、家族が使いやすいような工夫を。



plan 8

トイレ

いつも清潔を保ちたいスペースです

トイレや洗面所は、利用する時間が重なることが少なくありません。可能であれば、お客様も使えるような共用のトイレ、寝室などに近い家族用のトイレを用意しておけば安心です。子供やお年寄りがいる場合は、動線を考えて配置することも大切です。

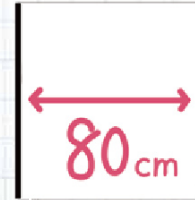
プランの種類③

plan 9

廊下

コンパクトに工夫したい

間取りの無駄をなくすためにも、廊下の面積は必要最低限に。曲がり角は少なく、幅は最低でも80cmを確保して。暗くなりがちなので、明かりをとることも忘れずに。



plan 10

階段

安全・安心を心がけたい

家の中でも危険が多い階段。手すりを取り付けるとともに、勾配や一段一段の奥行きや高さには注意が必要です。可能であれば、階段の途中に踊り場を設けた折り返し階段が理想。



デザイン性
だけでなく機能性の
高い手すりをつけて

1段1段の
高さや奥行きに
注意!

plan 11

玄関

たくさんの笑顔に出会えるスペース

玄関はその家の顔。最低でも2畳くらいは確保したいもの。スッキリとした明るい玄関にするために、シューズインクロークなどを検討してみるのもおすすめ。防犯やプライバシー対策にも気をつけて。



plan 11

収納

スペースの取りすぎにも注意です

子供の成長などにもなって年々増えていく「物」。家を建てる時は、将来のことを考えて収納スペースを用意しておきましょう。ウォークインクローゼットや食品庫など、専用の部屋を用意するだけでなく、階段下などのデッドスペースを活用するのもおすすめです。また、収納の周りには、扉や引き出しの開閉動作に必要なスペースを確保しておくこともお忘れなく。

plan 12

車庫

使い勝手の良いスペースに

車庫の場所はもちろん、そこにどんな機能をもたせるのかも大切なポイント。自動車を置くためのスペースだけでなく、自転車や屋外で使う工具なども保管できるようにしておくとう便利です。

水栓や流し、コンセントなども設置しておくとう、

さらに使い勝手がよくなります。

また、ビルトインガレージにする場合

は、排気ガスなどが家に入ってこないよ

うにするための工夫が必要です。



車だけじゃなく
外で使うものを置く
スペースとしても
活躍するよ

家族のライフスタイルを知る

家族が100あれば、家に対する希望も生活スタイルも100通り。どんな間取りが最適なのかは、家族によって違います。

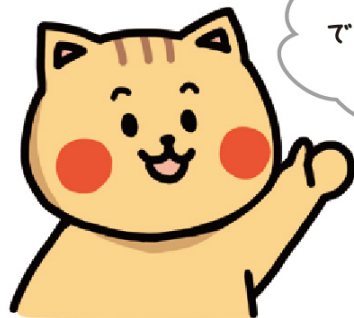
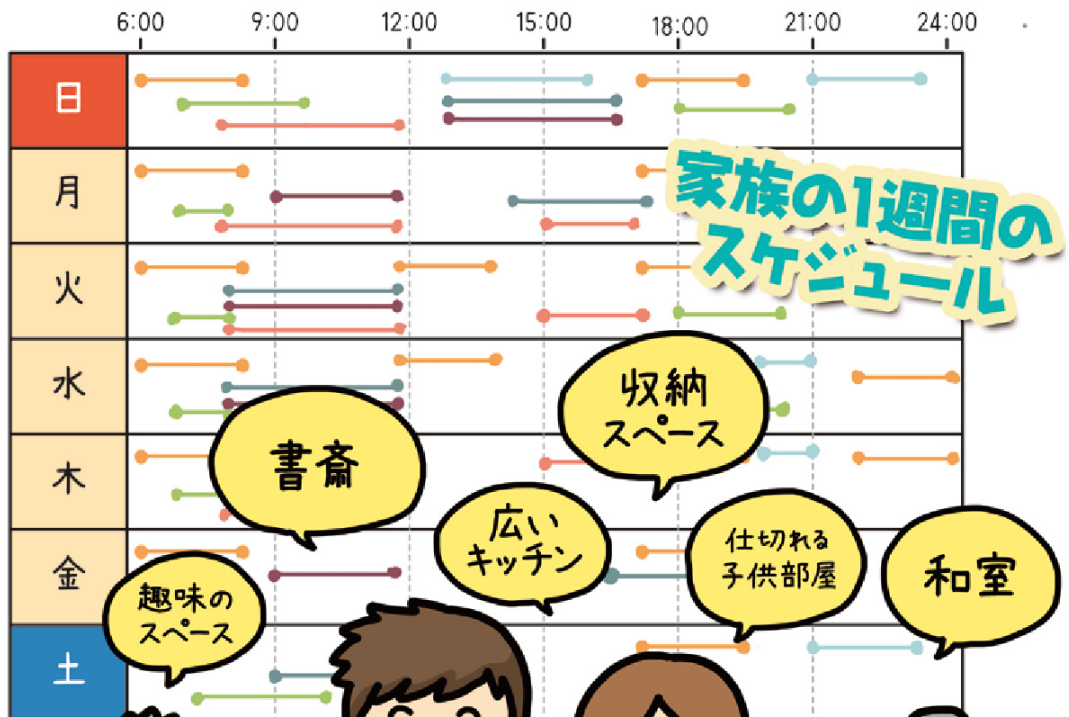
そこで、家族みんなにとってもっとも暮らしやすい家や間取りを考えるため、家族の要望をまとめるための「家づくりノート」を準備しましょう。紙におとしこみをすることが、あなたにピッタリの間取りを見つけだす手助けになります。ノートには、家族の夢や希望、土地の情報、将来のライフスタイルの変化、資金計画などを項目別に整理しておきます。ノートはどんなものでもかまいません。家族の意見をまとめておけば、設計士や工務店との打ち合わせも具体的にすすめることができるのでとても重宝します。

さて、その中でも間取りを決めるときのヒントになるのが、家族それぞれの生活スケジュールです。まずはノートに一人一人の1日のタイムスケジュールを書き出します。パッと見てわかるように、図や表にしておくのがよいでしょう。次に1週間単位のスケジュールを記入します。仕事や習い事など、家族がそれぞれに別のことをしている時間、家で一緒に過ごす時間など、その傾向や割合を知ることで、どこに重点を置いて間取りを考えたらいいのかが見えてくるはずです。

また、1年後から10年後、そして20年や30年といった将来の家族の予想図もあわせて書き出しておきます。たとえば、3年後に両親と同居の予定があれば、あらかじめ部屋を用意しておく必要が出てきますし、10年後に子供が家を出て行くかもしれないと考えれば、夫婦だけでどうやって過ごすのかというプランも必要になってくるでしょう。具体的な未来図を描くことで、これからの家族に最適な間取りが浮かび上がってくるのです。



1日・1週間のスケジュールを書き出そう



1週間の流れが
できたら、家族みんなの
要望を聞こう

Point

スケジュールや要望、アイデアを書き込む
「家づくりノート」を作ると便利です。

間取りの考え方②

ゾーニング

今度は、間取りの大まかなプランを立てるゾーニングを行います。ゾーニングとは、建物の空間を用途別、機能別にまとめて効率的に配置してやることです。

まずは、リビング、ダイニングなどの共有スペース、寝室や子供部屋などの個室スペース、浴室やトイレといった水回りやその他のスペースにざっくりと分類し、それぞれ床面積の1/3を配分します。

たとえば、1階と2階をあわせた面積が72畳(36坪)であれば、スペースごとに24畳(12坪)ずつ割り振ります。そしてさらに、共有スペースであれば、この24畳のうち、リビングダイニングに12畳、キッチンに4畳…というように、部屋を大まかに割り当てていくのです。

このとき注意が必要なのが、階段や吹き抜けの位置です。建物は立体で考えなくてはならないので、上下階で揃える必要がある場所がずれてしまっていたら、家として完成させることができません。ほかにも、トイレや洗面所、子供部屋の音が周囲の部屋に影響しないかなどへの配慮も必要です。

このゾーニングと先ほどの「家づくりノート」を組み合わせることで、より具体的な間取りが見えてくるでしょう。家族とのコミュニケーションを大切にするために階段はリビングに設ける、また、個室はコンパクトにして、家族が自由に使うことのできる多目的スペースをつくるなど、それぞれの家族にあった間取りが完成します。

細かい部分はプロの設計士のお仕事ですから、まずは楽しく自由に間取りを考えてみるのがおすすめです。

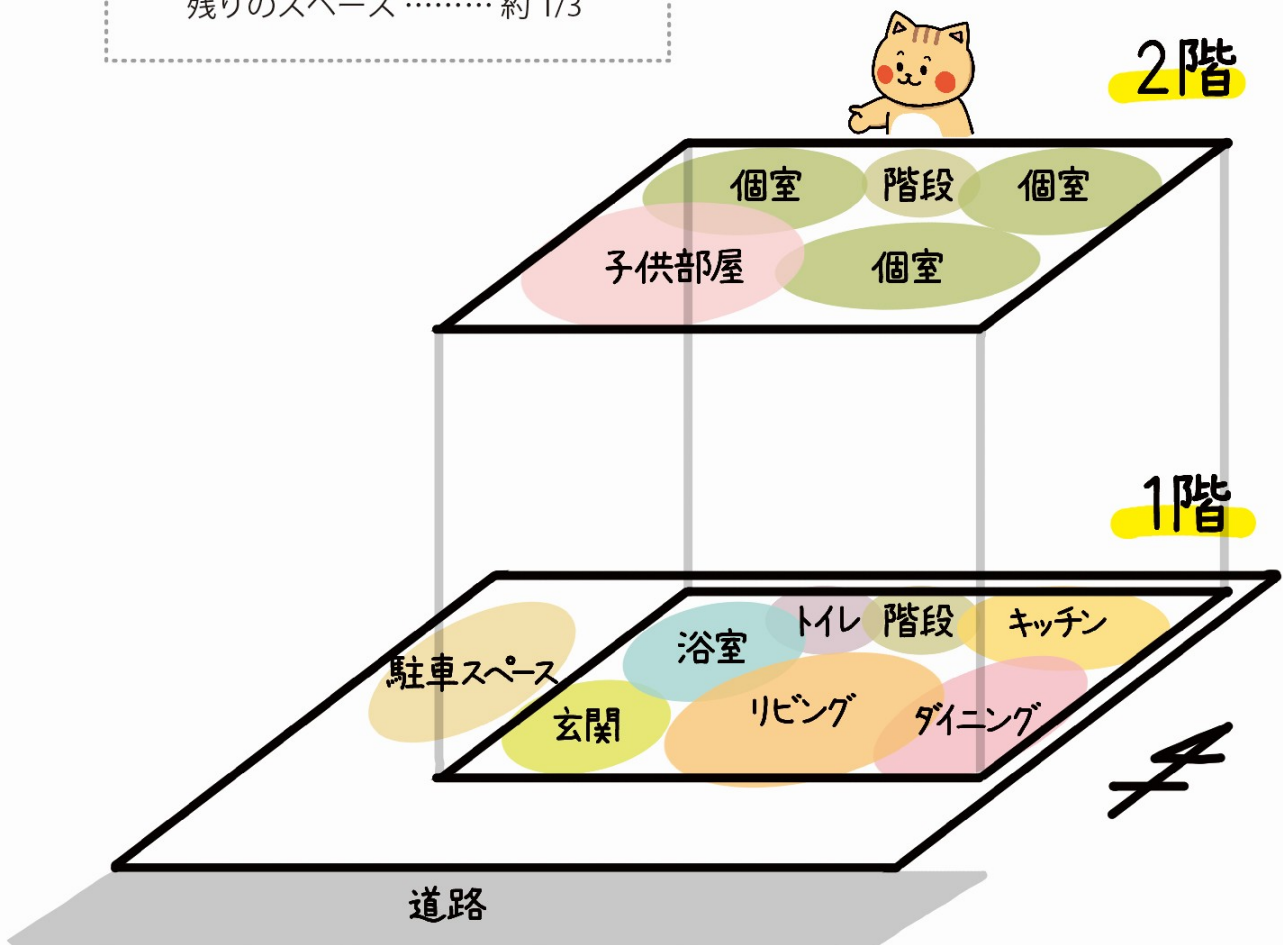


家族の要望をもとにスペースをゾーニング ★ ★

スペース配分の原則

- 共用スペース …………… 約 1/3
- 個室スペース …………… 約 1/3
- 残りのスペース …………… 約 1/3

／ おおまかに考えてみよう ／



Point

ゾーニングで重要なのは家を立体的に考える事です。
吹き抜けや、階段の位置などに特に注意が必要です。

間取りの考え方③

間取りを考えるにあたって、まずはじめに参考にするのがインターネットやチラシの情報ではないでしょうか。インターネットでは、間取り作成プランなどを利用することもできるので、誰でも簡単に間取りをイメージすることができます。世の中にあるたくさんの情報の中から、自分たちの希望に近いものを参考にするのもいいかもしれませんね。

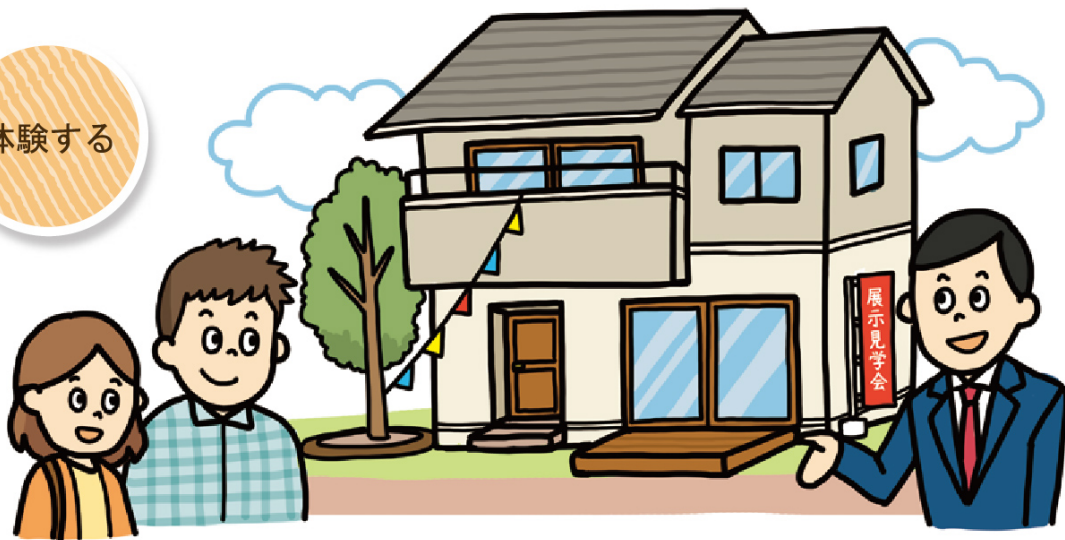
現場見学会やOB宅への訪問などを通して、実際の間取りを見てみることも大切です。頭の中だけではわからなかった家づくりのアイデアが浮かんでくるでしょう。また、そこで実際に暮らしている人の意見もとても参考になります。どんな工夫をすれば使いやすいのか、家づくりや間取りで苦労したことは何かなど、家を建てる立場と目線でアドバイスをしてくれますし、不安があれば相談にも乗ってくれるはずです。ぜひ、積極的に参加し、声をかけてみましょう。

さて、家族で検討を重ね、ゾーニングが完成したら、そこから先はプロにおまかせください。家族の希望を最優先しながら、経験と知識に基づいた家づくりをお手伝いします。家族の生活の中から生まれたアイデアとプロの意見とをひとつにまとめ、最高の住まいを完成させます。



家族のライフスタイルに合った間取りの研究 ☆☆

体験する



完成見学会や家づくりOBお宅の訪問

調べる



インターネットで情報収集

見る



雑誌・書籍などでイメージづくり

Point

図面や数字だけで判断せずに、積極的に見たり、体感していただくことが大切です。

あとがき

家づくりにおける、間取りの考え方はわかりましたでしょうか？事前にしっかりと間取りのプランをつくれれば、家族みんなにとって快適な空間を手に入れることができます。

また家づくりのポイントは、「すぐに相談にのってくれる」「適切なアドバイスをしてくれる」住宅会社と出会うことです。

あなたの家づくりを成功させるために疑問や不安があるのなら、迷わずに当社にご相談下さい。あなたの家づくりが、家族の一生の幸せづくりとなるよう全力でサポートさせていただきます。

●著者プロフィール

株式会社 □□□□□□□□□□

代表取締役 ○○○○

経歴 □□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□

ホッと落ち着く空間がほしい人のための「間取りのルール」

平成□年□月□□日 初版第1刷発行

発行：株式会社□□□□□□□□□□

住所 □□□□□□□□□□

TEL □□□□□□□□□□

FAX □□□□□□□□□□

URL □□□□□□□□□□



図解でわかる

ホッと落ち着く空間がほしい人のための

間取りのルール

I'S
HOME
DESIGN